© UNICEF/UN0609131/Alhamdani

unicef
for every child

世界の子どもたちを取り巻く水の状況

2022月2月

（公財）日本ユニセフ協会
大塚まどか

本日の構成

- ユニセフの概要
- 子どもたちが直面する水の問題
- 水と衛生の前進

- 持続可能な水と衛生サービスを届けるために（映像）

1. ユニセフ（国連児童基金）概要

ユニセフ（国際連合児童基金）とは

子どもの権利を守る国連機関。最も脆弱な立場の子どもを最優先に支援。
子どもが生まれ持った能力を最大限に発揮できる持続可能な社会変容を目指す。

unicef

母親のおなかの中にいるときから、成人になり社会で活躍できるまで
誰一人取り残されず命が守られ、機会を得ることができるよう
世界190の国と地域で活動を実施。

5つの分野
目標

- 保健
- 栄養
- HIV
- 教育
- 暴力や搾取からの保護
- 水と衛生
- 緊急支援

← ジェンダーの平等 ― 気候変動レジリエンス →

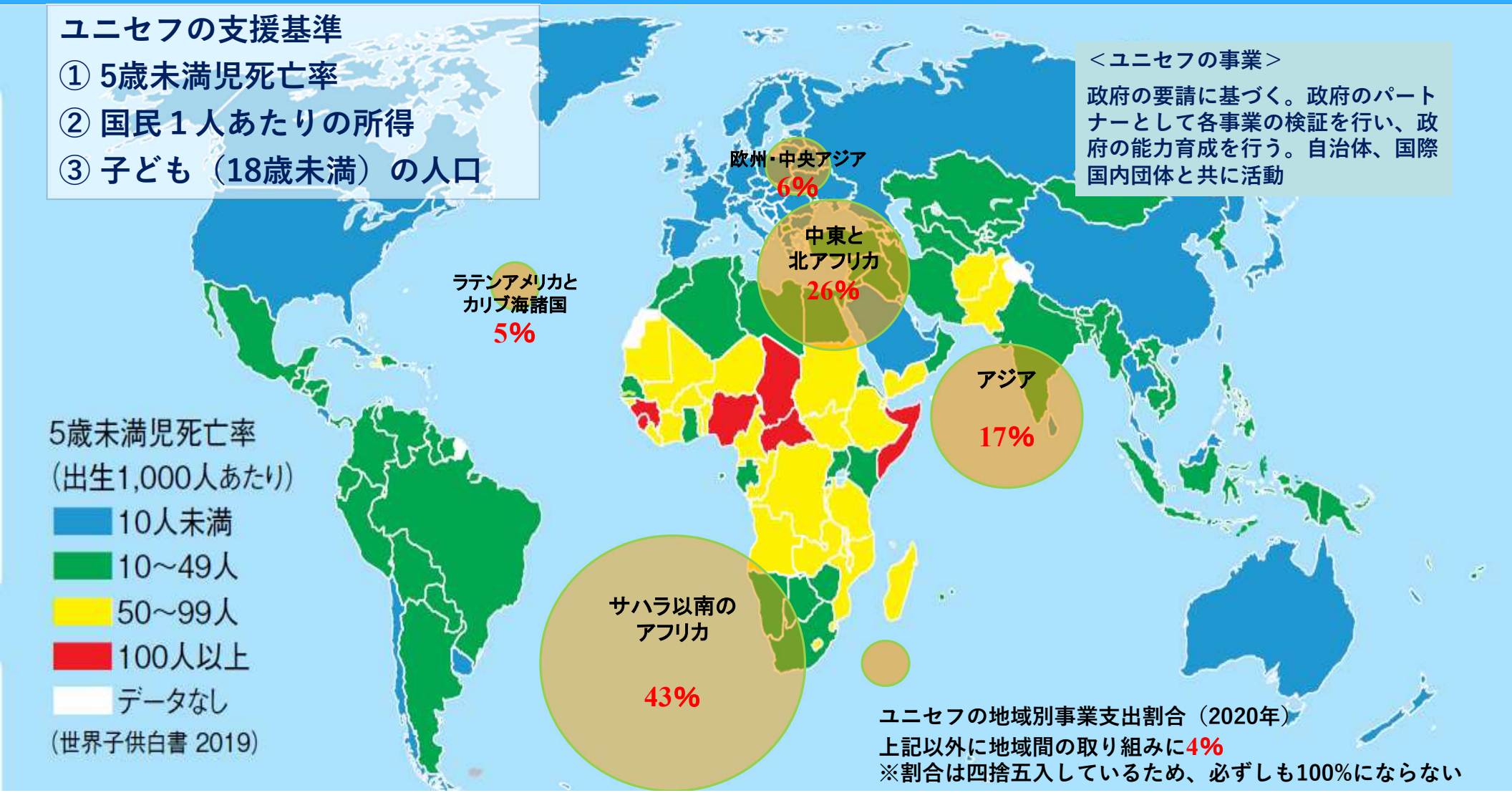
支援基準と活動地域

ユニセフの支援基準

① 5歳未満児死亡率
② 国民１人あたりの所得
③ 子ども（18歳未満）の人口

＜ユニセフの事業＞

政府の要請に基づく。政府のパートナーとして各事業の検証を行い、政府の能力育成を行う。自治体、国際国内団体と共に活動



ユニセフの地域別事業支出割合（2020年）
上記以外に地域間の取り組みに4%
※割合は四捨五入しているため、必ずしも100%にならない

2020年活動実績の一例　COVID-19の中で

5,800万人の子どもを含む1億600万人に、水、衛生設備（トイレ）衛生習慣に関する必要不可欠なサービスと物資を届けた。

70カ国以上で、重度の消耗症（急性もしくは重度の栄養不足の状態）の子ども約500万人への治療とケアを実施した。

約1億4,700万人の女の子を含む3億100万人以上の子どもの遠隔学習を支援した。手洗いのための石けんと清潔な水の使用、体調不良の場合の対応手順、社会的距離のルール、および適切な衛生習慣を含む学校再開ガイドラインを発表。

「COVAXファシリティ」（COVID-19ワクチンの共同購入と公平な分配のための国際的枠組み）において主導的役割を担い、92カ国の低・中所得国向けのワクチンを調達し、各国のワクチン配送準備を支援した。

新型コロナウイルスへの対応と並行して、**152カ国で455件**の新規および継続中の人道危機に対応

2.　子どもたちが直面する水の問題

© UNICEF/UNI198668/Wandera

© UNICEF/UNI201640

不衛生な地表水の利用

©UNICEF/UN055381/Romana

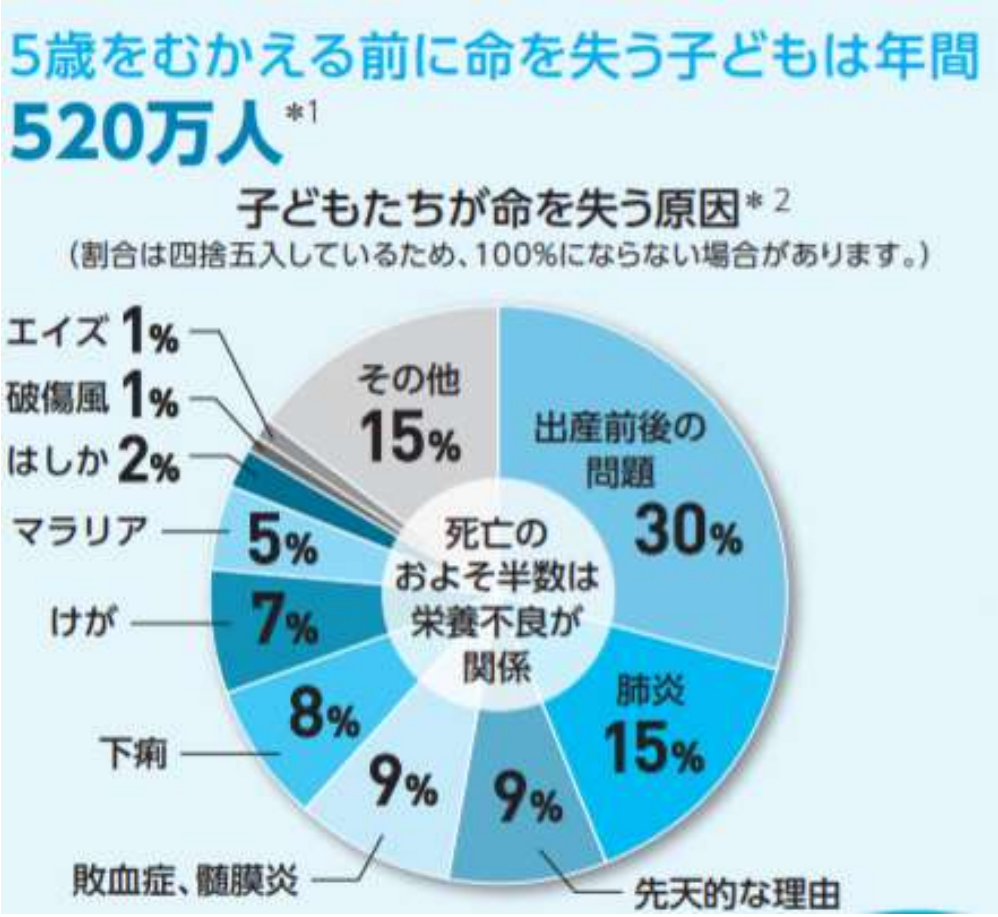
排泄物が含むウィルスなどの病原体は

不衛生な環境や習慣を通じて広がります

© UNICEF/UN06957/Tesfaye
遠い水源

© 日本ユニセフ協会

5歳未満児の主な死亡原因

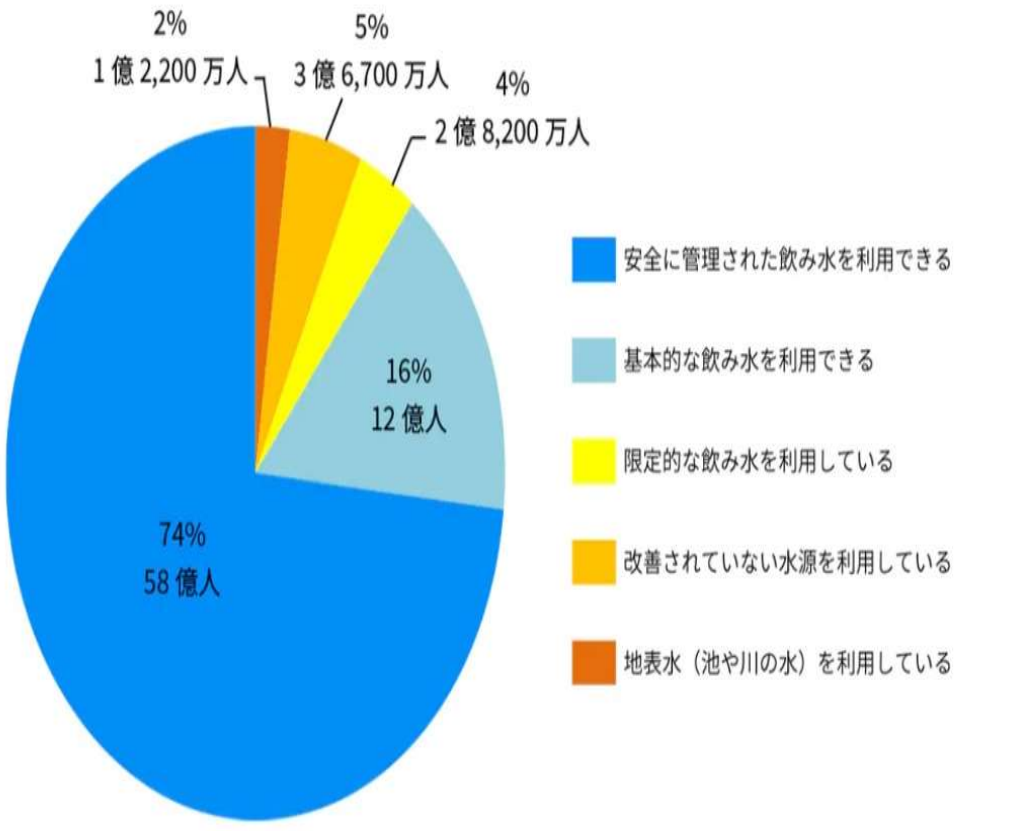


- ✓ **予防可能な原因**で多くの子どもが命を失っている
- ✓ 栄養分の接種を妨げる**不衛生な水**や衛生環境の未整備、予防のための情報が得られないことはさらに慢性的な栄養不良のリスクを高める

1. Levels and Trends in Child Mortality 2020　2. Levels and Trends in Child Mortality 2019　グラフ ©日本ユニセフ協会

© UNICEF/UNI74567/Estey

世界の人々の飲み水へのアクセス状況　2020年



グラフ © 日本ユニセフ協会
UNICEF/WHO「Progress on household drinking water and sanitation and hygiene 2000 – 2020より作成

20億人が、安全に管理された**飲み水**を自宅の近くで使用できない。

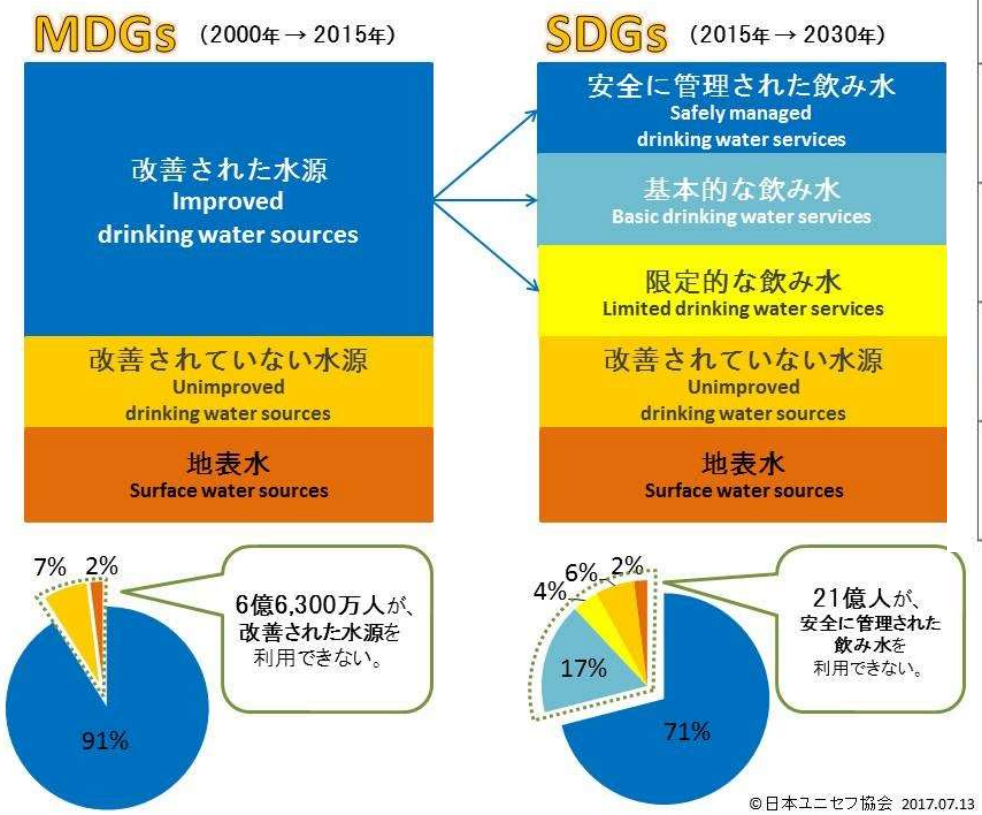
このうち、1億2,200万人は、湖や河川、用水路などの未処理の地表水を使用している。

36億人が、安全に管理された衛生施設（**トイレ**）を使用できない。このうち4億9,400万人以上は、家や近所に利用できるトイレがなく、道ばたや草むらなど、屋外で用を足す、屋外排泄を行っている。

23億人が、石けんや水が備わった基本的な**手洗い設備**が自宅にない環境で暮らしている。

UNICEF/WHO「Progress on household drinking water and sanitation and hygiene 2000 – 2020」（ユニセフ・WHO 水と衛生に関する共同監査プログラム(JMP)による最新報告書『家庭の水と衛生の前進2000-2020）

必要な時に入手可能な安全な水を



	外部汚染から保護される構造	自宅にある	必要な時にいつでも入手できる	水質の安全性の確認	自宅に水を持ってくるのにかかる時間
安全に管理された飲み水	○	○	○	○	―
基本的な飲み水	○	いずれかひとつでも×			往復30分以内（待ち時間含め）
限定的な飲み水	○	いずれかひとつでも×			往復30分を超える（待ち時間含め）
改善されていない水源、地表水	×	―	―	―	―

SDGsが採択された2015年、それまでにはなかった「**安全に管理された水**」という定義が誕生した。**水質の安全性に加え、必要な時にいつでも手に入れられる**ということが、条件として明確に示されることになった。

安全な水が変える子どもの生活

井戸、給水設備の設置。管理・維持方法に関する研修の実施。家庭での安全な水の保存方法の普及など、一次予防に重点を置いた取り組み。

→

長時間の水汲みから母子を解放

→

栄養状況の改善

収入状況の改善

衛生的な暮らしで健康に

水があれば学校に通える！

公平な機会

行動変容　自発性と持続性の促進

Photos: © UNICEF

学校の生徒・住民主体の衛生習慣・意識向上活動ー衛生への気づきセッション（左上から時計回り：ベトナム農村、小学校、マラウイ農村、ウガンダ農村、中学校

戦火の中の
給水システムへの攻撃

© UNICEF/UN046894/Al-Issa

移動と避難生活

© UNICEF/UNI367259/Fazel

© UNICEF/UN0406742/Andrianantenaina

気候変動が生み出す
難民・移民

ユニセフの取組み例　より安全に、より安価で、より近く

マダガスカル　保健センター、学校、地域に給水する重力給水システム、家庭での正しい水管理の啓発ツール。

パレスチナ　水車を出動させるとともに、各地に浄水拠点を開設して安全な水の供給を開始。

Photos:　ⓒUNICEF

ベトナム　遠隔の農村部
フィルター現地生産・原料を現地調達

南スーダン
洪水被災地での
浄水パウダー
使い方の実演

ユニセフの取組み例　水が危険な地域では

政府、パートナーと実行していること

- 住民への啓発。
- 家庭や地域、学校でできる水質検査の普及
- 他の安全な水源の確保
- 家庭や地域レベルで安価に出来る貯水・浄水技術の開発・試行

バングラデシュ池からの砂ろ過

カンボジア貯水池底にシートを提供。水キオスクのろ過装置を通し紫外線で殺菌

パレスチナ　家庭訪問、直ちに給水車を出動させるとともに、各地に浄水拠点を開設して安全で安価な水の供給を開始。

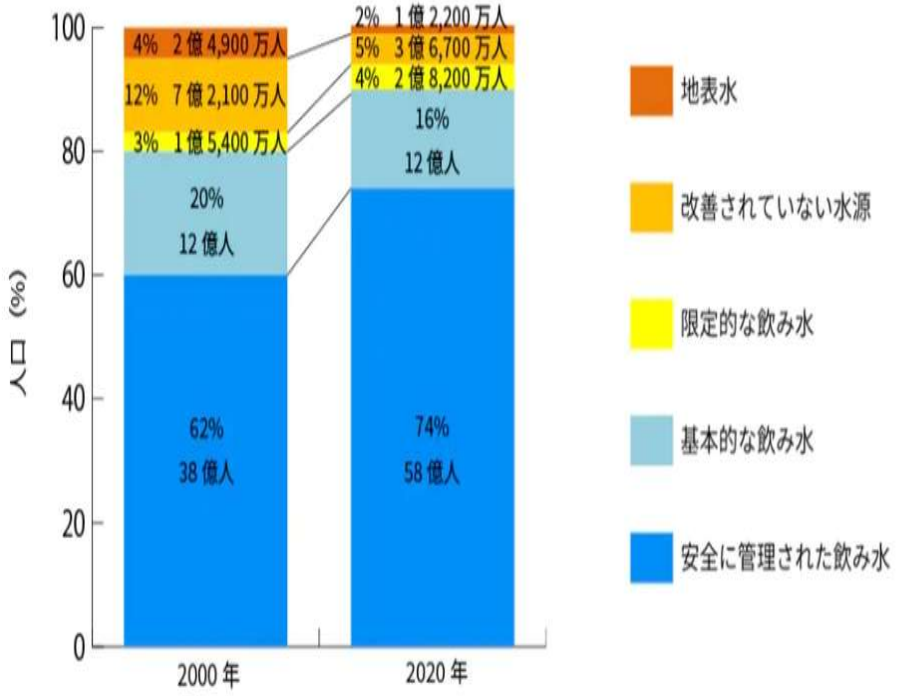
インド：学校での水質テスト

Photos: ©UNICEF

3.　水と衛生の前進

より良い方向へ前進を続けている水の分野

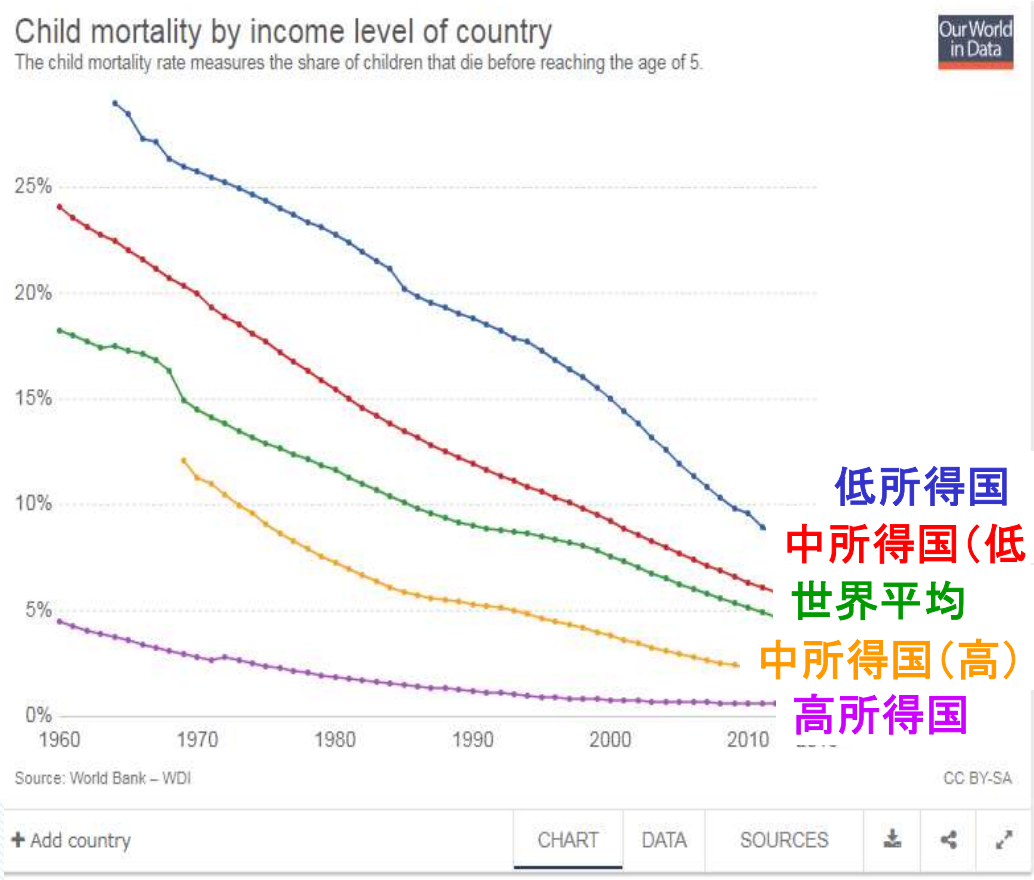
世界で安全に管理された飲み水を利用できる人の割合は、62%（2000年）から74%（2020年）まで改善している。



グラフ © 日本ユニセフ協会

UNICEF/WHO「Progress on household drinking water and sanitation and hygiene 2000 - 2020より作成

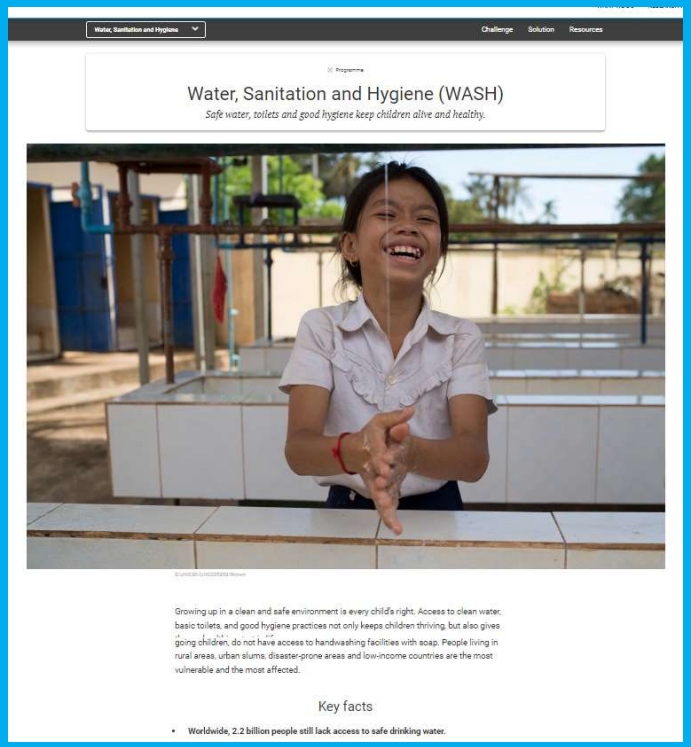
低所得国・中所得国（低）・中所得国（高）・高所得国別の５歳未満児死亡率の推移（1960～2015年）

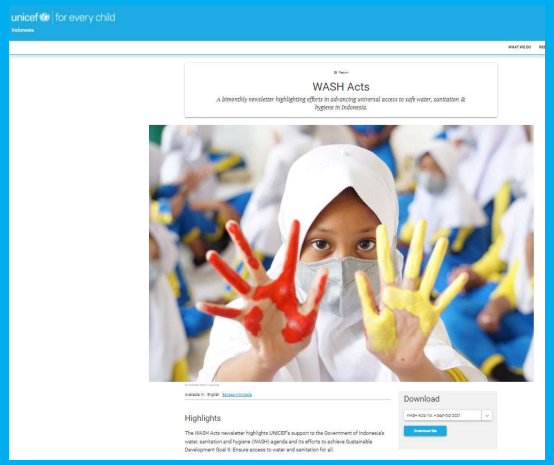


https://www.youtube.com/watch?v=I3ZOVLutYWM&list=TLGGSfoEc0ez3EwyOTAxMjAyMg

すべての子どもに、安全で持続可能な水と衛生サービスを届けるために　　Ⓒ UNICEF Video

より詳しくは





Unicef.org
“　WASH　”で検索

Unicef.or.jp
“　水と衛生　”で検索

国事例：インドネシア事務所
四半期に１度　活動進捗を報告

“　WASH Act　”で検索

ありがとうございました

（公財）日本ユニセフ協会　団体企業事業部
corporate@unicef.or.jp